

小郡と鴨の関わり ～「小郡の鴨」を未来へ～

問 文化財課文化財係 ☎75-7555



令和4年7月から、3回にわたって連載した鴨に関するコラム。最終回の今回は、「これからの小郡と鴨」について触れます。

小郡の鴨猟を今に伝える数少ない伝承者の1人・天本博さんは、冬になると津古で鴨猟を行います。約20年前から再開したという鴨猟は、今も昔ながらの無双網での猟です。
※無双網猟については、令和4年9月1日号で紹介しています

希少な鴨猟の現場を取材

鴨猟の醍醐味は、鴨との駆け引きだと天本さんは言います。実際に猟場へ取材に行くと、伝統的な猟法でありながらも、地形を生かしたカモトヤ(見張り小屋)の位置、耕作しなくなった水田を整備した餌場(えば)、光を漏らさないための暗幕、害獣対策など、現代に合わせた工夫がうかがえました。

天本さんの捕った鴨を美食したところ、程よい触感があり、店先で売っている鶏肉や合鴨とは違う、野性味と奥深い旨味を感じました。

鴨を模した様子(模型)を市HPから視聴できます



(上) 美食した鴨
(左) カモトヤ

おごり鴨map作成中

問 商工・企業立地課商工観光係
☎72・2111

これを見れば、今の“小郡と鴨”がわかる！

小郡と鴨の関わりや、天然鴨料理・合鴨料理を提供する店などを紹介するガイドブックです。



※2月末に完成予定です。完成後、市ホームページに掲載します

あまもとよしひろ
鴨猟師の天本美博さんにインタビュー



Q. いつ頃から鴨猟をしていますか

小さい頃、親の無双網による鴨猟を手伝っていました。二十数年前、本格的に猟を再開しましたが、要領など体が覚えており、記憶を基に網や仕掛け、カモトヤなどを現代に合ったものに改良してきました。

Q. 猟場について教えてください

猟期(11月15日～2月15日)を迎えるまでには、餌場(えば)の整備や網の手入れなど一年を通して準備が必要です。また網や杭は、太さや長さの微調整が重要です。

Q. 鴨猟への思いを教えてください

真冬の凍てつく寒さの早朝6時。カモトヤで息をひそめてじっとして機会を伺い、いよいよ“網被せ”となります。鴨に逃げられることもよくあります。無双網の手綱を引くか、引かないか。鴨とのこの駆け引きが無双網猟の醍醐味です。

「小郡の鴨を取り巻く食文化」が
100年フードに認定

日本には豊かな自然風土や歴史に根差した多様な食文化が存在しています。

令和3年10月、そのよ
うな食文化を文化庁が
「100年フード」と名付
け、後世に継承していく
ことをめざす事業が始ま
りました。初年度である
令和3年度に「小郡の鴨
を取り巻く食文化」が認
定されています。

「小郡の鴨」を未来へ

認定を受け、「小郡の鴨」をより多くの人に知ってもらおうという動きが広がっています。令和4年度は「鴨のまちプロジェクト」の始動や「鴨まちコンテスト」の実施のほか、小郡市商工会推奨特産品として「料亭さとう別荘」の天然鴨料理が認定されました。

鴨猟を続ける人、鴨料理を提供する人、鴨文化を伝えようとする人、さまざまな人の関わりや思いを紡いで、「小郡の鴨」は今に至っています。これからさらに未来へとつながっていくため、もっとその輪を広げていきましょう。

「小郡は鴨のまち」——ふとした瞬間にこの言葉を思い出し、もらえるよう、今後もさまざまな取組を進めていきます。



●小郡音頭にも「鴨」が!?

昨年11月に行われた「秋まつり」で流れた「小郡音頭」。実は歌詞に鴨が登場しています。



とんでくるくる有明鴨が
ねぐら慕うて三沢池に
浮ぶボートに花吹雪ソレ
小郡りや よかそこ
みんなの町よ

小郡音頭(三番)



●味坂小学校にも「鴨」!

「味坂(鱈坂)」の地名は「アジガモ」に由来するとも言われています。味坂小学校には、平成14年度卒業記念として児童が描いた鴨の絵があります。

●子どもも鴨に夢中かも?

令和4年、埋蔵文化財調査センターの企画展で無双網を展示しました。見学に来た子どもたちは「大きい!」と興味津々に触っていました。

